

# 私たちの 町議会びらとり



▲ポロシリの春

ここが聞きたい一般質問 ……………P2

予算審査特別委員会報告 ……………P6

委員会報告～質疑応答～ ……………P8

行政報告 ……………P13

審議した議案  
第1回臨時会・第2回定例会 ……………P15

あの人に聞く ……………P16

**VOL. 111**

**2022.4.22**

# ここが聞きたい一般質問

3月の定例議会では、5名の議員から7件の一般質問がありました。

## 中川 嘉久 議員

### 転作奨励金の

### 見直しを白紙に

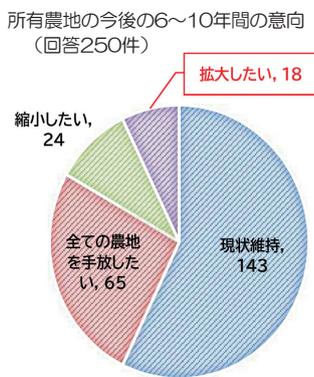
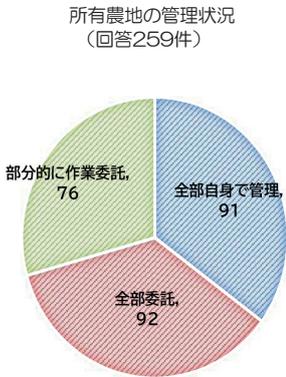
**問** 政府は、米の転作助成の柱となる水田活用の直接支払交付金の見直しを固めています。今後5年間で一度も水張りしない水田は、交付対象から除外するの方針が示され、平取町の農業関係者にすでに大きな影響を及ぼしています。そこで農業協議会は、水田転作耕作者にアンケート調査を実施していますが、その回答結果について伺います。

いうことは容易ではないと考えています。今後10年間で、半数以上の方が所有農地の現状維持を望んでいると回答しており、その中でもごくわずかの方が農地を取得し規模拡大を図りたいとし、反対に3割の方が規模縮小、または全ての農地を手放したいという結果になっています。

**答** (産業課長)

調査の内容は、今後の所有農地の扱い、作業の受委託、制度改正に伴う交付金が減額になった場合、また交付金がなくなった場合の農地の考え方についてお聞きしています。転作制度において、牧草管理する機械を持たない土地持ち非農家や作業の手が回らないトマト生産者は、国が勧める5年間に一度は米を作ると

- 「令和4年度水田活用の直接支払交付金見直し」に関する意向調査結果 平取町農業協議会
1. 調査対象者 451件 (経営所得安定対策等交付対象者369件及び対象水田所有者55件)
  2. 調査票発送日 令和3年12月30日
  3. 回答数 266件 (回答率59%)
  4. 回答結果



**答** (産業課長)

実態調査の結果を踏まえ、関係機関と協議した結果、今後の当町の農業振興に向け、産地交付金を活用できる令和8年度までに、畑作物の定着化や農地流動化、担い手への集積、また水張り可能な圃場を維持していくための取組みに活用していきます。特に牧草を優先に単価設定をしていきながら、新規のメニューについても必要に応じ配分することとしています。

**答** (町長)

今回の交付金制度の見直しで、道内国会議員からも制度の延長や見直し、また激変緩和措置等も農林水産省の幹部と再度協議をしたいと伝えられています。当町としても今後の状況を見ながら、さらに要望すべきことがあれば、各関係団体と協議を重ね要請していく考えです。

これからの平取の農業については、地域農業の荒廃地対策などの課題解決に向け、農業協議会で検討していきたいと考えています。

※農地流動化とは 農地の権利移動、賃貸借、売買することです。

## 松澤 以久子議員

今後の保育施設の  
在り方を問う

**問** バチラー保育園は、建替えを機に、令和5年4月から新園舎で幼稚園機能を備えた保育所型認定こども園に移行する計画です。

令和5年度からは、定員を73名と余裕を持った定員数になります。現在、紫雲古津へき地保育所は6名、荷菜へき地保育所は10名の定員です。保育時間は8時から17時までとフルタイムで働く保護者には短く、認可保育所の入所を望む方もいます。この機会に紫雲古津・荷菜へき地保育所のあり方を検討すべきと考えますが、いかがか。

また、平取町内の子どもが減少し保育所の経営が困難となり、ほかの地域への入所や統合された場合、0歳、1歳、2歳の乳幼児のために市町村の認可事業となる地域型保育事業を考えていくべきと思いますが、町の考えを伺います。

**答** (保健福祉課長)

平取町の出生者数は毎年20名前後で推移すると予想され、また一部の保育所でも、ここ数年定員割れが続いています。今年度、教育保育施設の利用に関するニーズ調査を実施しました。その結果を踏まえながら、バチラー保育園の改築を契機に、今後の保育体制を具体的に検討していく必要があると考えています。

少子化に伴い認可保育所への入所者数が減少し、今後の経営が困難になることも予想されますので、より良い方策を考えていきます。



△バチラー保育園

## どうする

## 地域の除雪

**問** 今年は、近年まれに見る大雪で町道への対応にもかなりの時間がかかっています。できるだけ早く除雪するためにも近くに住む除雪機械を所有している方と、町の施設と同じように委託契約することはできないか、伺います。

また、除雪ボランティアなど町ぐるみの除雪支援の取組みを関係各課、社会福祉協議会、自治会などと業者も含めて、まず町が呼びかけをして協働による地域の除雪体制づくりができないか伺います。

**答** (建設水道課長)

町道の除雪依頼は、毎年積雪量に関わらず委託契約をし、それに伴う保険料や最低保証料金の予算確保が必要なことから、個人への町道の除雪対応をお願いすることは難しいと考えます。今回の大雪で高齢者からの問合せもありましたので、社会福祉協議会にある助け合いネットワークの機能やその他支援の仕組みを見直しながら、平取式の除排雪のルー化ができるよう検討していきたいと思えます。

## 高山 修議員

これでいいのか  
行政改革

**問** 令和4年度行政改革による組織の変更について伺います。

町民課と保健福祉課の事務ですが、令和4年度から福祉係を2つに分け、子育て支援係と町民課に町民福祉係を移管するとしています。これは子ども家庭総合支援拠点の設置の対応を迫られていることではなく、保健福祉課の業務が多岐にわたるということが懸念されるという理由ですが、業務の内容や町民の利便性を考えた上での対応なのか伺います。

**答** (副町長)

福祉系の業務の分割は、町民課と保健福祉課で、同じふれあいセンター内にあり、これが別の場所になるのであれば、利用する町民の方々にも不便をかけることとなりますが、同じ場所にあるということでご理解いただきたいと思います。

今回の組織変更については、まちだより等で町民への周知をしっかりと行っていきます。

**問** 広報広聴係をまちづくり課から観光商工課に移管し、観光振興及びPR業務の展開を図るということが目的ということでしたが、今までの業務のほかに観光PRや観光に関わるイベントを広報広聴係が担当のかわります。

**答** (副町長)

観光振興及びPRを強化するというところで、観光商工課に移し、同じ課にあることによって、広報紙を活用した観光PRも含め内容充実が図られるという観点で移管しました。

**問** 新たにゼロカーボン推進係がまちづくり課に設置されますが、何をどのように業務として取り組んでいくのか、具体的に教えていただきたいです。

**答** (副町長)

ゼロカーボン推進係では、これまで地域戦略係として所管していた木質バイオマスセンターの管理運営やそれに係る地域エネルギーに関すること、地球温暖化対策実行計画の策定などに係る事務を担当します。

加えて平成27年度に国の認定を受

けたバイオマス産業都市構想に沿った木質のみならず、可能性のあるバイオマスの活用を検討、さらには2050年ゼロカーボンシティーの表明に向けて進めていきたいと考えています。

## 鈴木修二議員

### 新型コロナウイルス感染症対策は

**問** 臨時交付金事業計画のなかで、PCR検査は130名分が見込まれていますが、感染拡大防止の一助として個人の対象者数を増やし、全額補助とすることはできないか伺います。

**答** (総務課長)

町内事業所においては、感染者が発生した場合、行政検査対象外とされた従業員等に対するクラスター発生抑制として全額補助としています。個人については、今後の状況を見ながら検討していきます。

**問** 発熱外来窓口の対応について伺います。仕事先の方が陽性者となり、感染が心配されたので国保病院にPCR検査を受けたいと連絡したところ、人数が多いことを理由に断られ、その後門別国保病院で検査を受け、陽性であったという話しを聞きました。

また、この家族も検査の申し出をしたところ、無症状であったことから断られたということですが、町民に対し、なぜこのような対応になったのか伺います。

**答** (病院事務長)

病院の発熱外来への対応としては、まず電話連絡を頂き、看護師が症状を確認して最終的には医師の判断で、症状のある体調不良の方を優先にPCR検査を実施しています。

連絡を受けた日の発熱外来の受付は午前10時までで、その時点でPCR検査ができる人数に達していたのでお断りいたしました。門別国保病院で検査を受けられたとのことですが、逆に日高町から当院を希望される方も多数います。

また、同居家族が陽性または濃厚

接触者となった場合は、検査や健康観察など保健所の管轄下となります。



△コロナウイルスワクチン接種の様子

**問** 臨時交付金事業計画に電気自動車等の購入事業が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症対策とは到底考えにくい。感染拡大が収まらない今、商工業を営む方から急にお客様が来なくなったという声が出ています。また食料品や灯油などの高騰が続く、町民生活を直撃しています。令和4年度の交付金事業計画を検討し直し、町民生活を応援する事業が優先と考えますが、いかがか。

**答**（総務課長）

新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金として、国の補正で当町にも9567万1千円追加配分されています。電気自動車の購入は、臨時交付金活用例のなかで、地域の再生エネルギーを活用した脱炭素社会への移行として示されていることから、ウィズコロナ禍の社会経済活動の再開と社会環境整備に向けた事業の一環として計画しました。

**答**（町長）

令和4年度の交付金事業では、今のところ2800万円を留保しています。第6波まん延防止等特別措置が出て以来、特に商業者に与える影響が予想以上に大きいと把握していますので、今後本当に疲弊が著しいというところを重点的に支援し、地域全体の経済対策に効果がでるよう実施に向けて検討していきたいと思っております。

## 四戸 正彦 議員

### 平取高校の 存続対策は

**問** 平取高校の令和4年度の入学者は12名程度と聞いています。このような状況が続くと平取高校の存続が心配されますが、今後どのようになるのか伺います。

**答**（教育長）

平取高校の存続に関しては、非常に強い危機感を持っています。平取高校は道立高等学校であり、生徒の募集や生徒数の確保については、北海道が責任を持つということが第一です。しかし、地域の高校として統廃合になると、平取高校に進学を考えている生徒や保護者にとって、他の高校への通学は経済的負担などが大きくなること、また地域の経済や町の振興にとっても影響があることから、町として様々な支援を行ってききました。

現在、平取高校は、地域連携特例校（旧地域キャンパス校）となっており、道教委もできる限り存続とい

う方針でしたが、昨年、地域連携特例校がある自治体に対して5年間の期間中（平取高校は令和3年から7年）に一学年の生徒数が20名を一度も超えない場合は、統廃合の対象となるという説明がなされました。道議会民生文教常任委員会でも、道教委に方針の見直しを求めています。町としても生徒確保につながる支援策を早急に考えていきます。

**問** 平取町は、これまで遠距離通

学生徒の通学費補助など数々の支援をしてきました。また公営塾「びらとり義経塾」についても、当初は高校の存続を考えての立ち上げでしたが、現在、平取高校の存続にどのようなつながっているのか伺います。

**答**（教育長）

生徒、保護者への経済的な支援や町採用の外国語指導助手派遣など人的な支援、また新入学生へのお祝いとして令和4年度は、授業で必要となるタブレット型パソコンを贈呈する予算を計上しています。中高校生への学力向上のため「義経塾」を開設し、今年度は国公立大学に2名進学

するなど成果が表れています。しかし、学力の高い高校やスポーツ、文化系の部活動ができる高校への進学希望、また新たな人間関係で自分を試してみたい、環境を変えてみたいと望む生徒が多く、経済的・人的支援だけでは生徒数の確保には繋がっていない状況です。

**答**（町長）

高校が廃校になったことで人口減少に拍車がかかったという他町の事例もあり、高校の存続そのものがまちづくりにつながるといふ強い意識で取り組んでいきたいと思えます。昨年は定時制から合わせて70周年を迎えた伝統のある高校です。存続に向けて対策を講じ、平取高校が魅力的になるような取組みを進めていきたいと考えています。



# 令和4年度 予算総額

# 101億960万円

～令和4年度各会計予算審議の一部についてお知らせいたします～

## 令和4年度各会計予算額

会計名	令和4年度 予算額	令和3年度 予算額	前年度 対比伸率
一般会計	73億 600万円	68億9,500万円	6.0%
特別会計	28億 360万円	26億9,610万円	4.0%
国民健康保険 特別会計	7億6,030万円	8億1,750万円	△7.0%
後期高齢者医療 特別会計	9,420万円	8,790万円	7.2%
介護保険特別会計	5億2,930万円	5億2,130万円	1.5%
簡易水道特別会計	3億3,910万円	3億 870万円	9.8%
国民健康保険病院 特別会計	10億8,070万円	9億6,070万円	12.5%
合計	101億 960万円	95億9,110万円	5.4%

### 予算審査特別委員会

○3月16日～18日開催

令和4年度各会計予算審査特別委員会の審議における主な質問事項は以下のとおりです。

**Q** 国有林野交付金、開発交付金はどのように入るものか。また完成後の平取ダムの分はどうなるのか。  
(木村)

**A** この交付金は国が所管する土地・建物の固定資産税分として算定され、今後平取ダムの分も納付されます。

**Q** とよぬか山荘の指定管理は、自治会からNPO法人を立ち上げて受けたという説明があったが、その後、地域との協議はどうなっているのか。  
(鈴木)

**A** 現在の指定管理者は豊糠自治会で、地域の利益にもつながるといふことで議会でも承認されましたが、NPO法人に変更する場合は財産の整理も含め課題もあり、継続協議としています。

**Q** 空いている職員住宅を法人には貸しているが、一般を対象に貸すことはできないか。  
(四戸)

**A** 法人と町とで契約し貸付けて、法人の職員が入居する場合はあります。

す。空き住宅は社会人枠採用の職員などへ優先して斡旋していきます。

**Q** エゾシカ緊急対策事業の補助金はいくらか、一般財源の持ち出しはどのくらいあるのか。  
(木村)

**A** 令和2年度においては、捕獲駆除謝金約3000万円、処理手数料約1100万円に対し、鳥獣被害防止捕獲活動への補助金は約1870万円、処理運搬費に係る道の交付金は約217万円となり、一般財源からの持ち出しは、約2000万円となります。



△役場駐車場横にいるエゾシカ

**Q** 間伐調査員の後継者育成を進めるとしながら、報酬が3名から2名に減額となっているのはなぜか。  
(鈴木)

**A** 季節的な雇用では人材も確保できないため1名をフルタイムとし、一般管理費で予算を確保しています。



▷間伐作業の様子

**Q** 結論を出せる状況に至っていないにもかかわらず、道の駅検討協議会委員の謝金が計上されていないのはなぜか。  
(櫻井)

**A** 要綱上、3月31日までの協議期間とし、検討結果を出すことにしているため、当初予算計上はしていませんが、協議会の意見等を聞いて新年度は対応していきます。

**Q** 共同墓整備事業については、総合計画審議会から令和4年度に実施すべきと答申があったが、なぜ予算措置されていないのか。  
(櫻井)

**A** お墓に関するアンケート調査の結果や自治会のご意見を踏まえながら、場所や時期について検討し決めていきます。

**Q** 就農チャレンジ農場の土地について、賃貸借ではなく町で購入は考えていないのか。  
(中川)

**A** 現在、転作の制度改正が示されているので、情勢を見ながら所有者と相談していきます。

**Q** 単身者の新規就農者も受け入れる予定だが、この方々も後継者として農村ふれあい事業への参加は可能か。  
(松澤)

**A** 後継者対策としてグリーンパートナー対策協議会で検討します。

**Q** 森林環境譲与税の積立金が当初予算として1千万円計上されているが、本来の目的に沿った森林の整備事業に活用すべきではないのか。  
(木村)

**A** 民有林整備のためにこの環境譲与税を活用していきます。令和4年度は間伐40ha、作業路等の整備を予定していますが、今後は森林所有者がどのように手を加えていくのか、林業の担い手の育成・確保など森林組合と意見交換しながら事業活用していきます。また国の公共事業費配分により、森林整備が遅れることがないよう基金の活用を考えています。

**Q** 介護保険の補助金で保険者努力支援交付金は、サロン運営も含まれるのか。  
(中川)

**A** 高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた取組みや支援の達成状況を評価指標による評価合計点で交付され、体操等通いの場へ65歳以上

の参加率などが配点されますので、サロン運営も該当します。

**Q** 国保病院の経営改善については、一般会計からの繰入金など数字からは改善しているように見えませんが、何か具体的な取組みはあったのか。  
(井澤)

**A** 院長はじめ常勤医の先生方にもご協力をいただき、経営改善について努力しています。常勤医の平日の宿直回数を増やし、出張医の依頼を削減、派遣看護師の採用も中止しました。さらにバイオマスセンターからの熱源供給による重油の使用量を削減し、新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金等の活用など収支の改善に努めました。

なお、令和3年度は、平成19年以来14年ぶりに追加の繰入をせず、当初予算額で決算できる見込みです。



**Q** 予算書では平均入院患者数を30名としているが、看護師数は基準を満たしているのか。収支を見ると、入院患者数に見合った看護師の配置でよいと思うが。（金谷）

**A** 看護師の必要人数は、看護配置と夜勤体制の2つの基準を満たすように算出します。現在の看護配置は、患者15人に対し1人の看護師が必要であり、看護師の人数は十分に足りているように見えますが、夜勤体制には「看護師1人あたり1ヶ月の平均夜勤時間数は72時間を超えてはいけない」という基準があり、これを満たすためには、夜勤専従者を除く夜勤に必要な看護師は14名となります。夜勤は入院患者の他に救急患者の対応もあることから3名とし、現在は看護師長も含め16名で対応しています。体制的には欠員が出ても基準を満たす範囲内で補充はせず、状況を見ながら看護師の採用を考えています。

**Q** 国保病院と振内診療所の年間外来患者数から割り出すと、稼働日数に約50日の差がある。診療所の外

来、訪問診療はそれぞれ週2日というパート的な契約に見えるが、振内地区また平取町にとって有益なことなのか。（櫻井）

**A** 来ていただいた時の条件等もあり、地域や患者さんにとって、いい診療方法を先生としても追及したいという思いにより、こういったかたちになっています。今後は国保病院も訪問診療等を検討する方向ですので、院長はじめ振内診療所長も交え、協議していく考えです。



## 議員全員協議会

1月18日開催 報告事項

◆本町中央団地新築工事の契約変更について

新型コロナウイルス感染症の影響により、木材等の資材単価が高騰したため、工事請負金額の契約変更となりました。

◆イオル文化交流センター建設工事の設計変更について

既存の引込給水管からの水量不足により、給水方式を直結給水方式から貯水槽水道方式に変更しました。

◆本町中央団地新築工事の計画変更について

令和4年度建設予定していた2棟8戸を1棟4戸に変更し、駐車場等のスペースを確保することになりました。

◆令和3年度子育て世帯等臨時特別支援事業について

新型コロナウイルス感染症の長期

化による影響が及ぶなか、国の子育て支援策として高校生までの子どもたちに対し、1人当たり10万円相当の給付を行い、平取町でも12月27日に先行して5万円を給付しましたが、残り5万円を地域経済対策も絡めたクーポン券で実施したいと報告がありました。これを受け、各議員からは前回同様、現金給付が望ましいという意見が多数出されました。

3月15日開催 報告事項

◆し尿処理施設の整備について

平取町のし尿は、むかわ町にある「日胆衛生センター」で処理されていますが、施設の老朽化により改築が検討されています。今後は、苫小牧市を含む関係町との間で広域化を検討していきます。

◆日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた特別委員会の設置について

令和4年12月の日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けて、指定の範囲やそれに伴う必要な事業や整備を推進していくため、議員全員による特別委員会を設置することにしました。

# 総務文教常任委員会

2月17日開催 報告事項

## ◆債権管理状況について

平取町債権管理条例第17条に基づき債権放棄をしました。

### ①住宅改良資金貸付金

1件27万4千円

### ②教職員住宅貸付料2件46万8千円

### ③国保病院医業収益2件7千円

## ◆令和3年度行政改革の検討について

### 《1》組織機構・事務事業の見直し

#### ①子ども家庭総合支援拠点の設置

#### ②保健福祉課・町民課の組織見直し

子ども支援係を新設し、町民福祉係を町民課に設置

#### ③観光協会の法人化と広報広聴係を

#### ④地域再生エネルギーセクションと

観光商工課へ移管

#### ⑤平取町職員給与改定に関する

条例の一部改正について

（四戸）

### 《2》財政運営に関する取組み

病院経営の効率化と収益向上の取組み

（総務課）

### 《3》職員に関する取組み

職員定数の管理、民間経験者の中  
途採用、定年延長の導入、人事院  
勧告の完全実施

### 《4》職員教育に関する取組み

職員研修の積極的参加、リモート  
研修の推奨、メンタルヘルス対策  
健康保持に関する研修の実施

### 《5》情報化に関する取組み

広報・ホームページの充実、情報  
公開の実施、自治体DXの推進

### 《6》公共施設に関する取組み

現行施設と廃止施設の運用管理、  
庁舎改築の検討

### 《7》広域連携

管内7町が連携協定を締結し、日  
高地域連携ビジョンの策定と推進

### Q 再任用制度や定年延長、民間

経験者の中途採用などが増えること  
により、世代間の人数的なバランス  
はとれるのか。

（櫻井）

### A 定年延長や再任用制度を運用

しているが、途中でやめる方も多く  
職員が不足しているので、新規採用  
の社会人枠を設けるなどしながらバ  
ランスを考えて対応しています。

（総務課）

### Q グランドデザイン策定の進捗

状況は。

（四戸）

### A 公共施設などの総合管理計画

とグランドデザイン、公営住宅の長  
寿命化計画もあり、まだ調整段階で  
す。

（副町長）

### ◆令和3年度職員給与改定に関する

概要について  
人事委員会の勧告により、令和  
3年度において、期末手当を職員  
0.15月、再任用職員0.15月、会計  
年度任用職員0.15月分引き下げま  
す。

### ◆令和3年度の平取町長等の給与改

定に関する概要について  
人事委員会の勧告により、令和3  
年度において、期末手当0.15月分  
下げて年額3.55月とします。

### ◆平取町職員の特殊勤務手当に関す

る条例の一部改正について  
看護師などの勤務時間外の自宅待  
機を命ぜられた職員に対し1000  
円、休日及び年末年始は1500円  
を支給します。

### ◆新型コロナウイルス感染症対応地

方創生臨時交付金の実施計画につ  
いて  
新たに令和3年度補正予算分とし  
て、9567万1千円の交付金が  
町に配分され、令和3年度及び令和  
4年度実施事業全38事業に活用する  
予定です。

### ◆平取町職員の育児休業などに関す

る条例の一部改正について  
地方公務員の育児休業などに関す  
る法律改正により、①育児休業の所  
得可能要件の緩和、②妊娠・出産等  
の申し出があった場合の措置の改正、  
③勤務環境に関する措置の改正が追  
加されました。

### ◆平取町職員の育児休業などに関す

る条例の一部改正について  
地方公務員の育児休業などに関す  
る法律改正により、①育児休業の所  
得可能要件の緩和、②妊娠・出産等  
の申し出があった場合の措置の改正、  
③勤務環境に関する措置の改正が追  
加されました。

### ◆平取町職員の育児休業などに関す

る条例の一部改正について  
地方公務員の育児休業などに関す  
る法律改正により、①育児休業の所  
得可能要件の緩和、②妊娠・出産等  
の申し出があった場合の措置の改正、  
③勤務環境に関する措置の改正が追  
加されました。



◆令和4年度高等学校入学出願状況について

現在、平取高校への出願者は平取中学校8名、振内中学校2名、町外から2名の計12名となっています。



△北海道平取高等学校

◆平取町教育推進計画等小中学校保護者説明会について

町内小中学校全7校で説明会を実施し、参加者は保護者49名、教職員25名でした。

Q 児童生徒数も減少し、高校の存続も厳しい状況になると思われるが、どう考えているのか。(四戸)

A 生徒の確保においては、各種支援策を講じていますが、苦戦している状況です。令和4年度は、町と新たな協議会を作り、高校のこれから、また地域振興に果たす役割等も含め対応していきたい。

(教育長)

◆ふるさと親子留学制度について

現在、3家庭児童生徒4人ですが、3月末で中学校を卒業する方がいて、4年度は2家庭となります。ログハウスも町が購入した経緯もあり、早い時期にその活用方法も検討しますが、この制度は令和4年度で中止します。

Q 親子留学制度については場所も含めて中止ではなく継続することは難しいのか。

(櫻井)

A この制度は、振内地区の学校が複式にならないために始めた制度ですが、振内小学校が完全複式になることから、ゼロベースで今後再構築していきたい意向です。

(教育長)

◆平取町木質バイオマスセンターの稼働状況について

令和3年4月より本格稼働しています。ボイラーは、6月と12月に機器の不具合により半月停止しましたが、概ね計画通りの稼働日数です。

バイオマスの導入による経費の削減額は、国保病院で387万円程度、公民館で45万円程度の見込みです。

Q 余った電力は売電できるのか。

(井澤)

A 基本的には、発電した電気はすべて施設で消費しており、売電することは制度上できないことになっています。(まちづくり課)

◆日高地域広域交通確保対策協議会における取組状況について

令和4年4月1日ダイヤ改正の概要について説明がありました。

今後引き続き協議をして、利便性の向上につなげていきます。

- ①富川高校6時33分発静内高校行き及び静内発16時10分苦小牧行きは土日祝日の運行化
- ②苦小牧駅前から静内便の発時分及び經由地変更

③静内から浦河老人ホーム線の発時分及び經由地変更

④富川く振内案内所く日高ターミナルの直通運転化

⑤所要時間の変更及び軽微な発時刻変更

◆アイ又住宅改良資金貸付制度の見直しについて

平取町アイ又住宅貸付金制度については、住宅購入価格が高騰しているため、社会情勢を踏まえ見直すものです。この貸付事業は国・道の補助事業で、要綱により条件などが決められています。令和4年度中に制度改正に向けて、引き続き国や道と協議を進めていきます。

Q 連帯保証人については補償組合などを利用出来ないか。(萱野)

A この貸付制度については、2名の連帯保証人を付けることが条件になっています。信用保証協会などは金融機関のみが利用できる制度になっています。

(アイ又施策推進課)

## 産業厚生常任委員会

2月18日開催 報告事項

◆ふるさと納税の寄附実績について

令和3年度は1月末現在5883件1億731万円の実績となり、9月から楽天を増やし申込みが増加しました。令和4年度はウェブ広告も予定しています。

◆平取町観光協会の法人化について

令和4年4月より法人化することとなり、観光協会は、観光産業を経済活動とし活性化することや観光による経済効果につながることを進め、行政は観光入込客数のデータ収集などを担うこととし、それぞれの役割で観光業の振興による持続可能な地域社会を確立することとします。

**Q** 観光協会の独立は今までの以上の効果を上げるのか。(木村)

**A** 独立組織として観光資源を活用し、自らも稼ぐということも含めて、観光業者、観光産業に影響を与えるような働きをしてほしいと思います。

ます。(町長)

◆新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の実施計画について

**Q** 抗原検査は補助対象にならないのか。(金谷)

**A** 試薬等がなくなった場合の対応として、抗原検査も最終的にはあり得ますが、現段階においては、PCR検査を進めていきたいと考えています。(総務課長)

◆バチラー保育園整備事業について

敷地面積が1807.303㎡、この中に園舎・園庭、さらには入所児童送迎時の駐車スペースを設けています。園舎は木造平屋建て724.172㎡、旧園舎解体後の跡地も既存園庭とともに、新たな園庭として利用する計画です。

実施設計では、8月本體工事に着工、完成後の令和5年3月に既存建物を撤去、全体工費が4億3066万9千円です。保育所及び認定こども園整備に関する交付金は、1億3721万7千円を予定しています。

◆保育士等処遇改善臨時特例交付金事業について

保育士や幼稚園教諭等を対象に、賃上げ効果が継続される取組みを行うことを前提とし、収入を3%程度引き上げるための措置を令和4年2月から実施します。

◆各認知症グループホームにおける事業の進捗状況について

当初計画では8月中旬に9名の入所者を見込んでいましたが、採用された職員の研修等もあり、今年1月で満床になりました。待機者の状況は、申込み26名中9名が入所されているので17名となっています。

**Q** 町からの運営費補助金を減額する方法について協議すべきではないのか。(千葉)

**A** 職員の勤務シフトの調整により縮減は可能ということで、福祉会理事長と協議をしていきます。

◆新公立病院改革プランについて

病院の現状と課題から経営改革の具体的な取組みを示し、地域包括ケア病床など将来を見据えた病床の再

編、訪問診療など地域に密着した新たなチャレンジが必要となります。

**Q** 他の病院からの入院患者を地域包括ケア病床で受け入れられるのか。(松澤)

**A** 近隣では急性期の基幹病院である苫小牧市立病院・王子総合病院が対象となり、治療が終了して在宅に戻るまでの間のリハビリが地域包括ケア病床になります。他の病院との連携で患者さんを受け入れることができます。(病院事務長)

**Q** 町民のニーズに合うような医療福祉体制をどのように整えていくのか。療養病床とケア病床の組み合わせが経営的にいいのではないか。(金谷)

**A** 改革プランを作成するに当たり、いろいろな意見を聞きながら、効率のいい経営にするための協議を重ねていきます。(病院事務長)

◆電子カルテ導入事業について

令和3年度に導入した電子カルテシステムは一式3999万6千円となり、財源は国の調整交付金を活用します。導入のメリットとして、医療安全のチェック機能の向上、業務の効率化など、各部門との連携強化が図られます。

**Q** 令和4年度整備予定の診療部門システム整備事業も一式4千万円かかるようだが、どのような経費がかかるのか試算しているのか。

(鈴木)

**A** 令和4年度導入分は翌年度から、使用料は100万円位と見込んでいます。電子カルテシステムの更新は概ね7年から10年ということですので。

(病院事務長)



◆単身者向けの新規(雇用)就農者研修(就農チャレンジ)農場の整備について

町の基幹作物であるびらとりトマトの生産維持を図るため、以前より新規参入者として毎年夫婦2組を受け入れています。トマトの生産者が毎年減少し、生産維持を補うことが難しくなってきたことから、

新たに意欲的な単身の若者を農業の担い手として受け入れができるよう研修農場を整備していきます。研修農場は、単身者が6名在籍する農場規模とし、6年の農業研修を経て独立就農する仕組みとしています。

**Q** 毎年単身者を受け入れる予定になっているが、来ない場合はどうするの。

(松澤)

**A** ハウスを空けないように、研修で使用しないハウスは、研修農場を運営するスタッフ及びサポート役がいますので、町内の生産者と同様にトマトを生産し、その収益を農場運営費に充てていきます。

(産業課長)



アイヌ総合政策推進特別委員会

2月17日開催 報告事項

◆平取町アイヌ文化振興公社事業、平取町文化的景観保護推進事業、アイヌ文化環境保全対策事業の実施状況について

令和3年度における①平取地域イオル再生事業②「21世紀・アイヌ文化伝承の森」プロジェクト③大学・大学院と地域の連携事業④シシリム力文化大学運営事業の取組み、第4次重要文化財的景観の追加選定に向け令和3年度から5年度にかけて予定される調査・計画立案等について説明がありました。また国から委託を受けて実施しているアイヌ文化に関わる地域文化保全対策業務8分野の調査について報告がありました。

◆令和3年度アイヌ政策推進交付金事業の実施について

2月25日に工事が完了するイオル文化交流センター建設事業、アイヌ文化のブランド化推進事業に係るコラボ商品の開発から販売までの実施

について報告がありました。

**Q** アイヌ文様などのブランドを守りつつも、企業などが使用したい、コラボしたいと申し出て来た時に、交渉や協議ができる受け皿のような体制づくりができないか。(木村)

**A** 工芸家の組織でもある一般社団法人ウレシパが担うかも含め、検討していきます。

(アイヌ施策推進課長)



▽アイヌ文様の万年筆

## 行政報告

### 《第1回臨時会》

◆令和4年1月11日から12日の大雪に関する報告について

1月11日からの大雪により、ビニールハウス等営農施設8か所に農業被害があり、被害総額は426万8千円となりました。積雪量は、例年の倍以上で平年値33センチを上回る77センチでした。



◆第6次平取町総合計画事業実施計画について

11月29日開催の議員全員協議会以降の実施計画の変更箇所とそれに伴う一般会計の財政推計の見直し、また12月6日から14日まで開催された実施計画の自治会説明会で出された意見、要望等について報告がありました。

◆新型コロナウイルス感染症対策について

町内における感染状況、3回目ワクチン接種の対応、まん延防止等重点措置に伴う公共施設等の利用について報告がありました。

### 《第2回定例会》

◆要望経過報告について

農林水産省は昨年12月、農家に支払ってきた水田活用の直接支払交付金制度の見直しを決定しました。これにより平取町の農業振興や今後の営農に大きな影響があることから、第9区選挙区選出の堀井・山岡衆議院議員に対し、生産現場の意見が反映されるよう国の対応を要望しました。

## 教育行政報告

◆町内の小中学校の状況について

1月14日に中学校、18日に小学校の始業式が行われましたが、1月27日から北海道全域にまん延防止等重点措置により、学校活動、部活動や少年団活動も町内のみとし、授業では管理衛生マニュアルに基づき対応してきました。2月22日には、前日からの大雪により、児童生徒の登下校の安全確保ができないことから、全校臨時休校としました。

3月に入り、3日・4日には公立高等学校の一般入試、各学校では卒業生を送る会などが行われ、卒業式が15日に中学校、18日から各小学校で挙行されますが、時間短縮や参加者の制限など感染防止対策をしながらの実施となります。



◆いじめ問題に関する児童生徒の実態把握調査について

道教委が年2回行っている調査で昨年11月に実施し、町内小中学校の児童生徒359名が回答しました。4月から「いやな思いをしたことがあるか」の問いに対し、「ある」と答えたものは54件（小学校53件、中学校1件）あり、前回6月の調査結果46件に対し8件の増、また11月の調査時点で引き続き「いやな思いをしている」と答えたものは23件でした。現在、学校自体で「いじめ」と認知する事案は小中学校ともありませんが、些細なことから重大な事態になることもありますので、学校では注意深く子どもたちの関係や状況を見守り、いじめは絶対に許されない行為であることを児童生徒に指導することも、保護者とも連携しながら、いじめ防止に向けた取組みを進めています。

◆体罰に関する実態調査結果について

道教委では体罰に関する実態把握と事故防止の周知徹底を図るため、教職員と小学校では保護者、中学校

では生徒及び保護者に対して調査を実施し、当町においては今年1月、町内小中学校7校に調査票を配布し、回収及び回答内容の点検、確認作業を終えています。

回答状況は、すべての教員72名について体罰行為はなく、生徒及び保護者からの回答についても体罰案件はなかったことが確認されています。

今後ともいかなる場合においても体罰は許されないとする共通認識の徹底を教職員間で図っていきます。

◆令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

新型コロナウイルス感染症により2年ぶりに、町内小学校5校の5年生43名、中学校2校の2年生42名を対象に、体格調査と実技調査、運動習慣等に関するアンケート調査を実施しました。

小学生の調査結果は、体格では身長が男女ともほぼ全国平均、体重は男女とも平均で全国より1キロ重い状況です。体力・運動能力面は、体力合計点で男子児童が8種目中5種目、女子児童は4種目で全国平均を

上回り、特にソフトボール投げでは、女子児童は全国を15ポイント上回る結果となりました。全体として男女ともに屈伸などの柔軟性と走力が弱く、握力や投げるなどの筋力は優れている状況でした。

中学生の調査結果では、体格は身長が男女ともほぼ全国平均、体重では男子がほぼ全国平均、女子は全国平均よりやや軽い状況です。体力・運動能力面は、体力合計点で男子生徒が8種目中7種目、女子生徒は5種目で全国平均以下となりました。

今回の結果を踏まえ、児童生徒の望ましい生活習慣の確立、体力向上への取組みを各学校が主体的に実施し、その環境づくりに努めていきます。

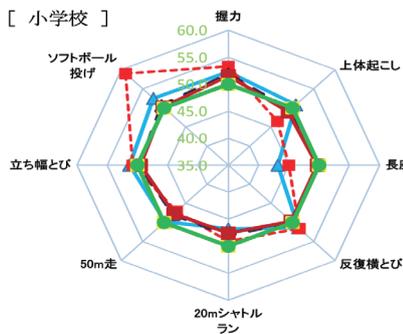


■ 平取町内小・中学校の状況及び体力向上策(学校数:小学校5校・児童数43名、中学校2校・生徒数42名)

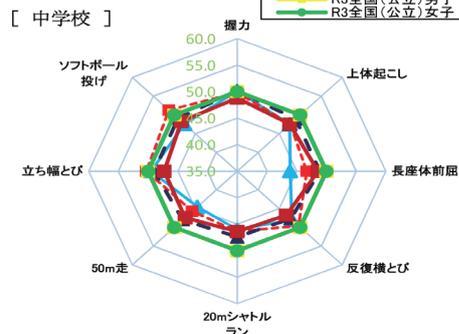
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示

[ 小学校 ]



[ 中学校 ]



◆令和3年度平取町教育奨励表彰  
被表彰者の決定及び授与式の実施について

本年度の教育奨励表彰については、1月28日開催の教育委員会議において、被表彰者を文化芸術奨励3個人、スポーツ奨励4個人、社会教育奨励2団体と決定し、2月18日に表彰授与式を実施しました。

◆公営塾「びらとりの義経塾」実施  
状況について

2月1日現在の受講者数は、中学生122名中98名(平取中学校83名、振内中学校15名)、平取高校生59名中36名(1年生9名、2年生13名、3年生14名)で、対象生徒受講率は74%となりました。今年度は臨時休校等もなく、年間通しての開講となり、昨年5月からは振内会場(役場振内支所2階)で毎月2回開講しています。平取町の子どもたち、それぞれの夢の実現に向けて、町として学習支援を実施していきます。

# 審議した議案

第1回  
臨時会

令和4年  
1月27日

▼工事請負契約の変更について

○本町中央住宅団地公営住宅新築工事

(1号棟) 請負金額1億32万円↓

1億421万4千円に変更

(2号棟) 請負金額9031万円↓

9430万8千円に変更

○イオロ文化交流センター建設工事

請負金額2億6004万円↓

2億6328万5千円に変更

▼一般会計補正予算(第12号)

住民税非課税世帯等、子育て世帯

への臨時特別給付金等1億193

0万7千円を追加

第2回  
定例会

令和4年  
3月9日  
~18日

▼教育長の任命

庄野 剛氏の任命(再任)に同意

しました。

▼条例の一部改正

平取町国民健康保険税条例、職員

の給与に関する条例、平取町長等

の給与に関する条例、平取町職員

の育児休業等に関する条例、平取

町職員の特殊勤務手当に関する条

例、平取町営牧野管理条例

▼町道の認定、変更認定

○認定 荷菜三塚鹿糠線、小平滝沢

北島線

○認定変更 荷菜高橋分譲線

▼一般会計補正予算(第13号)

職員の退職等による人件費の減額、

新型コロナウイルス感染症拡大防

止による事業費の減額及びワクチ

ン接種事業に係る費用精算、シカ

捕獲頭数増による活動支援事業補

助金、加工用馬鈴薯の生産拡大に

伴う産地生産基盤パワーアップ事

業補助金の増額など、差引き予算

総額を2852万5千円減額

▼一般会計補正予算(第14号)

畜産・酪農収益力強化整備等特別

対策事業補助金310万1千円の

減額

▼特別会計補正予算

○後期高齢者医療特別会計補正予算

(第1号)

保険料負担金315万1千円を増額

○介護保険特別会計補正予算(第2号)

介護給付費支払準備基金積立金

1463万円を増額

▼議員発議

特別委員会の設置及び特別委員会

委員の選任について

日高山脈襟裳国立公園化特別委員会

委員長 高山 修

副委員長 中川 嘉久

▼決議

「ロシアによるウクライナ侵攻に

ついて」決議

▼請願

平取町国保病院における透析室開

設を求める請願

請願者

患者代表 白川 さゆり

家族代表 山口 京子

紹介議員

外平取町透析患者家族会  
金谷 満 鈴木 修二

【産業厚生常任委員会付託】

## ◆住民懇談会の開催

### 申し込み

平取町議会では、町民の皆様から町政や町議会に対し日頃考えていること、感じていることなどの意見を伺い、今後のまちづくりに反映させていくため懇談会を開催しています。申し込みは、個人・グループ・団体を問わずいつでも受け付けていますので、お気軽にお申し込みください。

◆申込み先

平取町議会事務局

平取町本町28番地(役場2階)

TEL2・2227

FAX2・3988



# あの人に聞く

～本町自治会 会長と小平自治会 会長の2人に聞きました～



本町自治会 会長

よしだ あきら  
吉田 彰 さん

(令和4年3月31日退任)

平取町は自然豊かで温暖、本当に住みやすい町だと思います。

札幌、苫小牧方面からも割合に近い距離に位置し、交通の便も比較的良いことから地の利を活かして交流人口をさらに増やす、しいては移住、定住につながる何か良い策はないものかと考えますが、本町も少子高齢化が進み人口の減少は否めないところです。

また、近年はどこも限らず自然災害が発生しております。今後においても自治会との連携を密にした取組みが大事ではないかなと思います。

平取町には都市部から人を呼び込める特産品、平取ダムを加えた観光資源がたくさんあると思います。継続的に魅力を発信し、本町の活気づけに結びつけてほしいと願うところです。

現在、自治会の活動はコロナ禍によりほとんどの行事ができない状況にありますが、通常の活動に早く戻りたいものです。ただ、役員のなり手がなかなかいないのが苦慮するところです。

平取町議会に対しては、議会側から各自治会、団体に議会傍聴の働きかけを検討してほしいと思います。議会も盛り上がり、町民も議会に一層感心を持つものと思われれます。



小平自治会 会長

さいとう さだそう  
斎藤 定三 さん

(令和4年3月31日退任)

日頃より、町行政や町民のための議会活動にご活躍いただき、感謝申し上げます。

近年の新型コロナウイルス禍での議会活動は、これまでにないご苦勞を強いられていることと思います。当自治会活動においても諸行事の中止や縮小といった制限を強いられ、これを機に新しい方式や見直しを行うキッカケになりつつあります。町議会におかれましても、これまで以上の議会活動を目指し、より良い行政への見直しのキッカケとなることを期待します。具体的には、町道沿いの花壇は、各団体や係ごとでの管理が行われていますが、その美しく咲く花壇をより引き立てる意味でも、周辺のゴミの片づけは勿論、まわりの草刈りを行い、総合的な美化整備に向けた活動にすべきと思います。

また、観光名所でもある義経神社から旧名所のハヨピラを見ながら、アイヌ文化伝承の里二風谷へと向かわれる方は少なくないと思われれます。その眼下には親水公園やイオルの草原、その向こうには清流沙流川が流れ、美しい景観を車窓からも眺められます。旧国道沿いのゴミやガードレールを覆い隠す雑草やイタドリを取り除き、公園もありますのでちょっと立ち寄って休憩したくなるような総合的な環境の整備と自然美を生かした町づくりを期待しています。

切実な問題として、今年は例年にない大雪で、ご高齢で独り暮らしの多い我が自治会員から除雪で入口に置いて行かれた雪に苦勞する声が寄せられました。住みよい、やさしい町づくりの一環として、原則を見直し、一人暮らしの高齢者の場合は、入り口も除雪することとしていただきたい。総じて、これまでの原則や基準が見直されるチャンスとしてより生きた議会活動を期待します。